



「高森人」

「自らの地域を知ることが、郷土愛や誇りを育てます。また、これからのまちづくりとは、人と人がつながることが重要になります。高森人とは、そのような郷土愛や誇りを持ち、人と人がつながりお互いを認め合う町民のことを言います。」

「高森人」の定義  
 高森町の  
 町民として

- ・ 前町までの会議で、町としての人材育成の部分で「高森人（ワークショップで出現）」という言葉で事務局にて置き換えた。ほとんどの意見は否定的→強い帰属意識や愛国心、また思想を制限するという意味が強くなってしまったため、
- ・ ただし「高森町の自治を担う人材として」人任せにしない学ぶ姿勢、町民が互いに学び合う、ひとりひとりが地域を担う人材（人材）としての自覚、町政に関心が持てるような学び、地域に感謝する、町を好きになる、町のことをもっと知るという場や制度が、行政や議会、自治組織、そしてそれぞれの団体の中で必要という、今までの議論がある。

- この議論を踏まえて、上記のようなものを表現できる言葉は？
- このあたりを明確にしても「定義」項目には入れる必要ない？

「高森人」の定義  
 高森町の  
 町民として

## 2-2 基本概念・原則

### 情報の共有

「高森町が目指す地域経営の確立には、わたしたち町民の主体的な活動が基本であり、そのために地域経営に関する情報を共有することを基本に進めなければなりません。」

- ・「共有」の定義（情報の量と質を同じにすること）（ニセコ町長片山健也氏）
- ・情報共有の定義・概念（ニセコ町まちづくり基本条例第17条）  
定義：町と町民とが町政に関する情報を保有し、及び活用することをいう。  
概念：情報共有は、行政からの一方的な情報提供だけではなく、町民相互の情報交流があってこそ成り立つものである。

地域経営の基盤

「まちづくり」※

- 情報共有は基本、これがあってはじめてそれぞれの抱える主体的な活動が生まれる（大杉寛教授講演会より）。
- 同様の議論は、まちづくり委員会の中でも出てきている。

### 【参考】高森町情報公開条例 前文より抜粋

「住民参加のまちづくりを実現するには、その主役である私たち町民が自ら考え、自ら行動することにあります。そのためには、私たちに、さまざまな情報が提供され、説明されなければなりません。

高森町が多様化し、あらゆる分野で大きな変化が求められている今こそ、郷土の歴史と伝統文化を再発見し、一人ひとりの個性を活かして、より良いまちづくりに向けて努力することが大切です。

私たちは、町が保有する情報の共有と公開を導き、「監視から提案」へと意識を変革することによって、高森町に在り得る喜びをすべての人が実感できるまちづくりのために、この条例を制定します。」

- では、高森町の「情報の共有」とは、どう定義するか？
- 上記の情報共有の定義を踏まえ、原則部分ではどのように表現するか？

高森町と町民との関係  
まちづくりの推進  
高森町

## 3 情報共有の推進

### 情報の共有

「わたしたち町民は地域経営に関する情報を取得する権利を持っています。」

・ 高森町の情報

- 知る権利について明記している。
- 町民の能動的な活用まで含む？ ※前回の「情報共有の原則」の議論が絡むはず

### 【参考】高森町町民参加条例

- (町の役割)
- 第4条 町は、町民自らがまちづくりについて考え、行動することができるよう町民参加の機会の提供に努めるとともに、町民参加を円滑に推進するための行政情報の公開並びに十分な説明に努めるものとする。
- 2 町の執行機関に置く付属機関の会議は、原則として公開するよう努めるものとする。
- 3 町の執行機関に置く付属機関の委員を町民の中から任命しようとする場合は、公募の委員を加えるよう努めるものとする。

### 情報の発信

「わたしたち町民は、一人一人が町の魅力を伝える媒介として、誇りを持って町の魅力を内外に発信するように努力します。」

→ まちづくり報告書から（添付では意見無し）

魅力発信の課題

受け手側の努力の現行



